

農作物技術情報 第3号 野生獣対策

発行日 令和8年5月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ **クマ人身被害防止** 死亡事故が発生していることから、山菜採りはできるだけ控えるようお願いします。
- ◆ **3つの基本対策** よせつけない・まもる・とるを基本に取り組みましょう。
- ◆ **獣種に応じた対策** センサーカメラにより加害獣を確認し、対策を講じましょう。
- ◆ **生息環境管理** 倉庫や車庫への施錠も忘れずに行いましょう。
- ◆ **クマ出没状況アプリ** 農作物や人身被害対策のため「Bears」を活用しましょう。

1 クマ人身被害防止

- クマの人里への出没が相次ぎ、死亡につながる人身被害が今年度に入って既に3件発生するなど（図2）、これまでにない危機的な状況となっています。
- 今年は春からクマの出没件数が多く（図1）、今後もリスクが高い状況が続くことが見込まれますので、これまではクマの出没がない地域においても、最大限の注意をお願いします。
- 特に、死亡事故の多くは山菜やきのこ採りの際に起こっていますので、春の山菜採りはできるだけ控えていただくようお願いします。

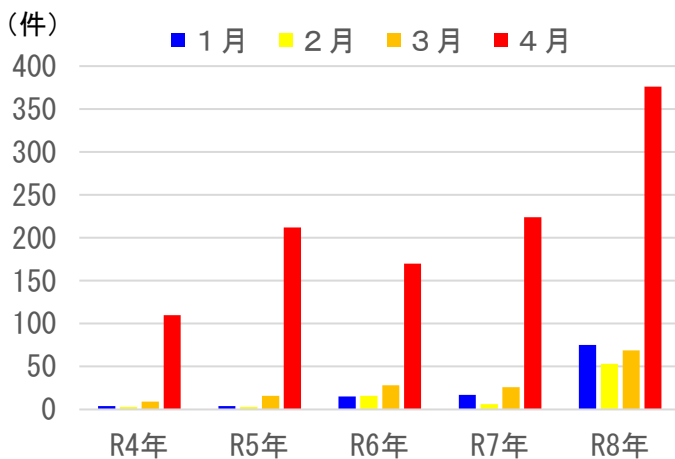


図1 クマの出没件数（1～4月）



図2 クマによる死亡事故件数（5/27 時点）

【参考】 [農作物技術情報特別号 ツキノワグマ人身被害防止対策（令和7年10月30日発行）](#)

2 3つの基本対策

- 農作物の被害対策は、①「生息環境管理（よせつけない）」②「侵入防止対策（まもる）」③「捕獲（とる）」の3つの取組が基本になります（[農作物技術情報第2号](#)参照）。
- エサになる農作物があり、侵入しやすい環境がある限りは、加害個体をいくら捕獲しても次の個体が侵入し加害する悪循環が続くため、生息環境管理及び侵入防止対策を優先して取り組みます。

- ・ 人身被害のリスクが高いクマが出没した場合や、明らかに野生獣の生息密度が高い場合等は「捕獲」が必要ですが、農作物被害を受けた場合、まずは、「生息環境管理」、「侵入防止対策」に問題がないか、確認します（図3）。

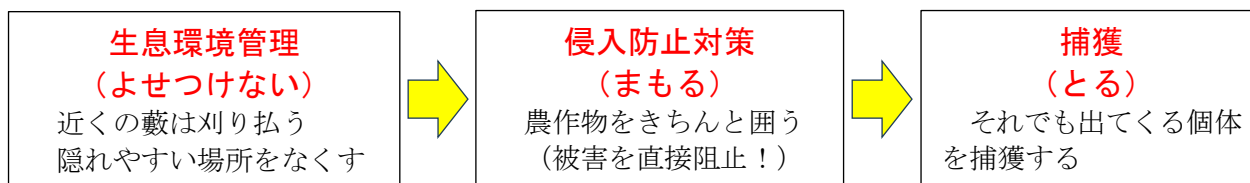


図3 3つの基本対策の流れ

2 獣種に応じた対策の実施

(1) 獣種の判別

- ・ 基本対策に取り組むために、まずは加害獣種を特定することが重要です。
- ・ 例えば、シカ、イノシシ、クマでは、それらに応じて設置すべき電気柵の高さ、段数が異なるほか、果樹で果実被害があった場合、カラスかハクビシンかなどで、とるべき対策が変わってきます。

(2) 判別の方法

- ・ 獣種の判別は、①足跡、歩き方、糞による見分け方、②食痕による見分け方、③センサーカメラによる確認、などがありますが、ほ場に明確な足跡、食痕が残ることは少ないため、センサーカメラ以外での判別は難しいのが実情です。
- ・ 例えば、明らかに大きい足跡であればクマの可能性が高くなりますが、子グマの足跡であれば、他の動物と判別がつくとは限りません（写真1）。



写真1 ほ場近くの獣道と足跡（蹄、足の指は確認できるが、獣種の特定には至らない）

(3) センサーカメラの仕組み

- ・ 「熱」と「動き」を感知する熱源感知熱源感知センサーにより、動物が来たときにだけ反応し、撮影が行われます（写真2）。
- ・ 撮影された動画または画像のデータは、SDカードに保存されます。
- ・ 夜間でも赤外線LEDを照射することにより、動物を驚かすことなく撮影できます。
- ・ 防水設計ではあるが完全ではないことが多いため、可能であれば屋根をつける、枝がある木に設置するなどにより、雨の侵入を防ぎます。



写真2 センサーカメラ

(4) センサーカメラのメリット

- ・ 人手をかけずに加害獣種を特定でき、獣種に応じた対策を立てることができます（写真3）。
- ・ また、加害個体を確認することにより、生産者が被害防止対策に取り組むきっかけにもつながります。



写真3 地域ぐるみでの対策を検討する座談会（センサーカメラの動画なども参考に対策を検討）

3 生息環境管理（よせつけない）

(1) 藪などの刈り払い

- ・ 野生獣は、本来警戒心が非常に強く、明るく開けた場所では人間に姿を見せることを避ける習性があります。
- ・ 藪などがある場合はそこに隠れ、田畑・集落に接近し被害をもたらすため、動物が隠れそうな藪を刈り払い、近づきにくい環境することが必要です（写真4）。

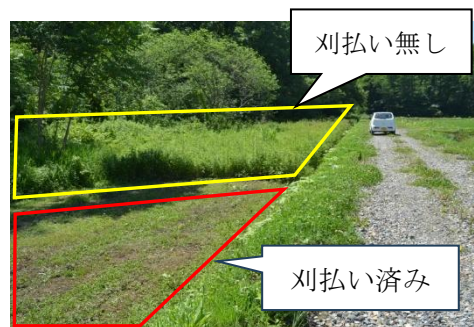


写真4 藪の刈り払い

(2) 誘引物の除去

- ・ カキ、クリなどの放任果樹は、野生獣のエサになるだけでなく、人身被害の原因にもつながる危険があるので、可能であれば伐採します。
- ・ また、人間にはゴミとなる収穫残渣なども動物のエサになるため、土中に埋めるなど適切に処分するほか、収穫しない落ちたクリなどの果実は冬の間のエサとなり、越冬できる数を増やすことにつながるため、秋のうちに処分します。

(3) 倉庫や車庫への施錠

- ・ 近年、クマが倉庫などの小屋に侵入し、農産物を食べる事例が増えています。
- ・ 実際、今年度死亡事故が起きた地域などにおいて、倉庫へのクマの侵入が確認されています。
- ・ これまでは被害がなかった地域でも、人身被害防止のため、扉に鍵を閉めるなどの対策が必要です。

(4) 農機具などの管理に注意

- ・ クマは、ペンキやガソリン、混合油などにも誘引されることがわかっています。
- ・ その行動は、ペンキなどをエサと見なしているのではなく、これらに含まれる揮発性の化学成分が、クマにとって強く刺激的なにおい信号として働いているために誘起されるのではないかと考えられています。

- ・ 農業の現場では、クマが執拗に草刈機をいじったため、軸が曲がったりエンジンが壊れたりするなどの被害も発生しています。
- ・ このような被害を防ぐため、農機具を外に放置しないなど、適切な管理が必要です。

【参考】クマが好むにおい

ペンキ、ワックス、燃料、香水、日焼け止め、車、など

4 野生獣対策に“特効薬”はない

- ・ 一般に、野生獣に対する忌避効果があるものとして、音や光、超音波を利用した商品が販売されています。しかし、これらの商品に対し、野生獣は導入当初は警戒しますが、高い学習能力により安全と判断した場合には再び圃場に侵入します。
- ・ こうした簡易なもので、一定期間以上、防御効果が期待できるものはないので注意が必要です。
- ・ 最近、県内でも多く見かける「識別テープ＝ピンクのテープ」も同様の考え方です。
- ・ これは効果が一時的であるだけでなく、「柵はくぐって通過するもの」と動物が認識してしまうと、電気柵もくぐって通過してしまうようになる可能性があります。
- ・ 直接動物に痛みを与えることができる電気柵の効果を低下させないためにも、地域で連携して適切な対策に取り組むことが重要です。

5 クマ出没状況アプリ「Bears（ベアーズ）」

- ・ 岩手県では、4月からクマの出没情報アプリ「Bears」の運用を開始しています。
- ・ このアプリは、LINE から簡単にクマの目撃情報の投稿、注意喚起の通知を受けることができます。
- ・ 今年も春から既に多くのクマが確認され、人身被害も発生するなど危険な状況が続いていますので、ぜひ御活用ください。

クマを見たら…投稿しよう！

岩手県全域版
クマ出没情報アプリ

Bears (ベアーズ)
運用開始!

LINEで
クマ目撃場所
を投稿・通知

左記QRから、
岩手県公式LINE
を友だち登録

(注) 安全を確認してから投稿

岩手県環境生活部 自然保護課野生生物担当 TEL: 019

クマ目撃情報を共有
県公式LINEと連携

LINEで投稿!

岩手県公式LINEから簡単にクマ目撃情報を投稿できます。

必要項目を記載して、地図上にピンを立てるだけで、迅速に情報共有できます。

岩手県公式LINEを開いて、「防災・震災復興」メニューを選択

「クマを見た!」からピンを立てれば投稿完了

LINEから通知!

登録した地域でクマが出没したら、岩手県公式LINEから注意喚起通知が届きます。

周辺地域の出没情報の確認や安全確保に活用できます。

岩手県公式LINEから通知

「クマはどこ?」からマップで閲覧可

誰でもカンタン!

生活部 自然保護課野生生物担当
岩手県盛岡市内丸10-1 TEL: 019-629-5371

こちらの2次元
バーコードから
登録できます

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- クマに遭遇しないために
 - 事前に入山地域の出没情報 や被害情報を確認する。
 - 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- クマを寄せ付けない
 - 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 出会ったときの行動
 - 背を向けて走って逃げない
 - 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 襲われそうになったら...
 - クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

春の農作業安全月間 [4月15日]

[~6月15日]

「これくらい・・・」少しの油断が事故のもと初心忘れず安全作業

岩手県山火事防止運動期間 [2月26日]

[~5月31日]

山火事を 起こすも防ぐも 私たち

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。

林野火災の多くは人為的な原因で発生していますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は6月25日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。